

Carnelian



紅玉髄

聖書ではオデムと呼ばれ、全ての願い事が叶うとされる石。ナポレオンの守護である八角印章も、マホメットの印章も、カーネリアンであったという。語源はラテン語の「新鮮」。古来より、瑞々しい色から、気力・活力を生む石と信じられてきた。好奇心を刺激し、集中力、やる気を充実させるという。肉体的な面では、血行を良くし、あらゆる血毒を癒すとされる。

Rhodonite



薔薇輝石

ロードナイトのロードンとはギリシャ語の「薔薇」。マンガンを含むピンク色の石で、太陽に当たると酸化し黒変する。苛立ちを鎮め、不安や恐怖を消し、心身のバランスを保つとされる。知的で静かな石であり瞑想時に似合う。持つ人の優しさ、愛情を豊かにし、美的センスを高めると言われる。また自らの表現力を豊かにし、社交運を高めるとされる。

Rhodochrosite



菱マンガン鉱

中南米で産出し古くからインカ人に「ピンクの薔薇模様の真珠」と呼ばれ大切にされてきたことから、インカローズとも呼ばれる。愛、夢、清浄を説く鉱物とされ、傷ついた心を癒し、心の底の情熱を再び呼び起こすとされる。また勇敢さ、思い切りの良さを与えてくれる。不誠実には色を白く変え、正しい行いには透明なピンク色で応えるという。

Amethyst



紫水晶

高貴な紫色から、僧侶達の儀式、秘儀に盛んに用いられた。エルサレムの城壁の土台の12番目の石。イエズス・キリストの血を象徴するワイン色であることから、男性の宗教的献身のシンボルとされた。愛と真実と情熱と受難、そして希望を表す。苦しみを歓喜に変え、調和を生み出すとされる。また酒酔いを防ぎ、酔いを覚まして正気にする力があるとされる。

Lapis Lazuli



青金石

語源はラテン語の「石」とペルシャ語の「青」、またはアラビア語の「空、青色のもの」。古代都市ウルでは「天空と水を象徴する石」、エジプトでは邪眼を防ぐアイシャドウ、そして日本では瑠璃と呼んで空海の護符になった。日本には産出しない。知恵と知性を増し、洞察力、直観力を養う。危険から身を守り、精神の不安を除き、成功に導くとされる。

HowliteTurquoise



ハウライト・トルコ

語源はカナダの鉱物学者 H.How にちなんだもの。原色は白色の柔らかな鉱物で黒や褐色の模様が入る。染色が容易なことからトルコ石の代用として広く用いられる。原石は純粋、無垢、清楚、崇高を象徴する。人間関係を好転させ、感情的なトラブルを避け、安全を約束するとされる。寂しさや悲しみを和らげ、心を平穏にする力があるとされる。

Amazonite



天河石

命名は「アマゾン河で発見された緑の石」に由来するとされるが、実際には産出されないとの説もある。緑色は鉛に起因する。精神面を安定させ、ストレスを解消するとされる。人の無意識に働きかけ、思考力、想像力を強め、夢を現実にするよう働きかける希望の石。また、心の迷いを晴らし、進むべき道を示すとされる。

Malachite



孔雀石

英名語源はギリシャ語の「葵 (malache)」から。古代エジプトでは粉末にして顔料やアイシャドウとして用いられた。同心円の縞模様が孔雀の尾羽に似ていることから孔雀石とも呼ばれる。孔雀は太陽神の保護を表し、その勇猛果敢な性質から弱者（特に女性や子供）を悪霊から守るとされ、ヨーロッパには赤ん坊のゆりかごの中に入れてお守りとする習慣がある。

Rose Quartz



紅水晶

愛と美の女神アフロディーテに捧げられた薔薇に因んで名付けられた。紅石英。紅色の正体はまだ良く分かっていないが、チタニウムの酸化物、あるいはルチルの微細な粒子が原因と考えられる。人間関係の調和を保ち、円滑な関係を築くといわれる。また美的な感性を高め、美への興味を膨らませ、優雅さを養うとされる。恋愛の石、天秤座の守護石。

Blue Lace Agate



青瑪瑙

メノウの一種で淡い水色がレース状の縞模様になって浮き出ていることから名付けられた。古来より危機回避の護符として用いられ、チベットではこれを蓮の花に見立て「神の石」として信仰の対象とした。激情を冷やし、落ち着いた気分を導き、心の安定を与えるといわれる。また社交的になり、交友関係を広げると共に邪な者の攻撃から守るとされる。